第61回 愛知母と女性教師の会

21世紀をになう子どもたちのために
—ともに育もう 豊かな心と 自分らしく生きる力を

2014. 10、4

10月4日、台風前の爽やかな秋晴れの中、東別院会館にて開催されました。

開会行事の後、「男女が自立し、ともに生きる力をどう育てるか—自分らしく生きることを考える実践を通して—」の提案テーマにて実践された、小学校2年生と3年生を対象としての授業 ①子どもの実態 ②めざす子供像 ③実践の概要 の報告がありました。自分に自信がない・自分の事を好きと言えない子どもたちが半数以上という実態に対し、今後の課題として、自分を肯定的に捉えられることができ、周りの人とのかかわりに自信をつけることができるように育てていく必要があるとのことでした。その後、声優であり歌手・脚本家である佐久間レイさんにより、「心のストレッチ～やわらかいところで、自分の物語を生きてみませんか?～」という演題の講演会が90分間ありました。佐久間さんは「アンパンマン」のバタコさんや「魔女の宅急便」のジジの声など多数の有名キャラクターの声優であり、それらの声で自己紹介してくださったので、一瞬でお話に引き込まれてしまいました。佐久間さん自身の自らの人生経験（シングルマザー・声優としてなど）や、多くの様々な壁を乗り越えてきて今思う事、伝えたいことをお話頂きました。その中で心に残った内容は、子どもたちは、周りの大人のフィルターを通して社会を見ているということ、フィルターとなる大人がまず自分の良いところ、嫌いなところを全て含めて自分自身を肯定的に受け止め、生き生きと希望をもって幸せを感じながら生きる、その姿勢を子どもたちに示していくことが大切というお話でした。アンパンマンマーチをアダルトバージョンで歌って下さり、やなせたかし先生のこの歌に込めた思いなどをお聞きすると、この歌の深い意味とメッセージに驚かされると同時に、歌声が心に響き胸に込み上げるものがありました。やなせ先生の言葉「人生は幸せごっこ」「一寸先は光」も印象的で、親としてできる限り、子どもの個性を尊重し、こんな子になってほしいという親の思いを押し付けるのではなく、“いつかきっと素敵になるに違いない”と子ども自らの力を信じ切ることで、失敗を恐れず、失敗しても立ち直ればいい、頑張っていることを認めてあげることなど、子どもへのかかわりで大切なことを教えて頂きました。最後の30分間は「いつか見る景色」という『語り』を見せて下さり、会場のあちこちからすすり泣きが聞こえるほど感動的なものでした。

講演後、テーマ「ともに育もう 豊かな心と 自分らしく生きる力を」に基づき、分散会が5グループに分かれて行われ、教師と保護者というそれぞれの立場からの意見交換が熱く交わされました。その後、アピール採択が行われ閉会となりました。とても実りのある会であると実感し、今後子どもたちに反映されることを願うばかりです